

Ⅱ 社会性を備えた豊かな心をはぐくむ

(3) 命を大切にする心や思いやりの心をはぐくむ教育の推進

9 各種体験学習の推進

農林業やボランティア活動など各種体験活動を通して、自主性を養うとともに、人や自然とかがわるることにより、社会性や思いやりを持てる子どもたちを育成します。

達成指標	「係活動等責任を持って行っている」と回答する児童生徒の割合 (上段：小5年、下段：中2年)	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*85% *83%	85% 87% 83% 85%	86% 88% 84% 85%	88% 85%

達成指標	職場体験学習を3日間以上実施する中学校の割合 (再掲Ⅱ-(4)-13)	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		75%	81%	83%	95%

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画(案)	推進担当課
26	農山村留学の実施	小学6年生を対象に、長野県と県内で農山村留学を実施し、農林業の体験活動や多くの人たちとの交流等を通して、自主性・社会性を養います。	56,975	小学6年生を対象に、千葉市少年自然の家で25校、県内公的宿泊施設で72校、長野県で23校が実施する予定。	指導課
27	移動教室の実施	小学5年生を対象に、少年自然の家で2泊3日の宿泊体験を行い、人や自然とのかかわりを通して、自立的な態度や社会性、思いやりの心をはぐくみます。	20,538	市内120校の小学5年生児童約8,900名が、千葉市少年自然の家で2泊3日の集団宿泊体験を実施し、自然の家及び周辺の豊かな自然の中で様々な体験活動や仲間作りの活動を行いながら、相手を思いやる心や社会性を育む。	指導課
28	少年自然の家の運営	少年自然の家では、集団で宿泊しながら行う自然体験活動や生活体験活動等を通して、子どもたちの健全育成を目指します。各学校の意見を取り入れながら、より豊かで多様なプログラムを用意します。	816,544	通年を通して、現代的な教育課題へのプログラム、自然の家を使用するにあたっての説明会・体験会、青少年指導者養成、少年自然の家開故事業、利用促進事業を行う。	健全育成課


22「Ⅱ 社会性」


29	自然教室の実施	中学2年生を対象に「高原千葉村キャンプ場・青少年自然の家」で3泊4日の自然教室を実施します。豊かな自然環境の下で、規律ある集団生活を行いながら、自然を生かしたさまざまな体験活動を実施することにより、生徒の心身ともに調和の取れた健全育成を図ります。	32,666	中学2年生（全中学校57校）を対象に「高原千葉村キャンプ場・青少年自然の家」で3泊4日の自然教室を実施します。豊かな自然環境の下で、規律ある集団生活を行いながら、自然を生かしたさまざまな体験活動を実施することにより、生徒の心身ともに調和の取れた健全育成を図ります。	保健体育課
30	小・中学校におけるキャリア教育の推進（再掲▶42）				
31	ボランティア教育の推進	実施校にボランティア教育推進委員会を設置し、学校生活の中でボランティアに関する体験的な活動を経験させ、思いやりの心をはぐくみます。	420	平成21～22年度推進校7校（加曽利中・松が丘中・更科中・土気中・都賀中・磯辺第一中・幕張本郷中）を指定した。社会福祉施設の訪問や交流、学校近隣施設の清掃や美化作業、アルミ缶の回収等、生徒による主体的な活動を予定している。	指導課

927,143

10 道徳教育の充実

人とのかかわりや社会体験などさまざまな体験活動等を通して、道徳的な心情や判断力、実践する態度など、道徳的实践力を育て、人間尊重の精神をはぐくみます。

 達成指標	「人が困っているときは、進んで助けている」と回答する生徒の割合	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		74%	76%	78%	90%

 達成指標	千葉市独自の情報モラル教育カリキュラムを実践した学校の割合（再掲Ⅰ－（2）－6）	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		—	10%	100%	100%

（千円）


No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画（案）	推進担当課
32	人権教育の推進	自他の人権を尊重し、思いやりの心を持って公正・公平にふるまい、差別のない望ましい人間関係をはぐくむ児童生徒を育成するため、人権教育担当者研究協議会や管理職特別研修会を通して、学校教育における人権教育の充実を図ります。	20	学校教育における人権教育の充実を図るため、6月16日に、千葉市立小・中・特別支援学校の人権教育担当者を対象に、研究協議会を開催する。また、7月23日には、千葉市立小・中・特別支援学校の管理職を対象に研修会を開催する。	指導課

33	情報モラル教育の推進 (再掲→20)				
34	道徳教育用教材の作成	本市独自の道徳教育用教材の作成に向けて、調査研究を行います。	0	道徳教育用教材の在り方について、「心のノート」「副読本」「地域教材の作成」等を中心に検討する。	指導課

20

11 環境教育の推進

環境問題に主体的に対応できる人間を目指し、意欲的にかかわり、考え判断し、よりよい環境づくりや保全に配慮した行動が取れる子どもたちの態度をはぐくみます。

 達成指標	「総合的な学習の時間」等の年間指導計画に、環境に関するテーマ・内容を位置付ける学校	現状	平成21年度	目標値
		全小・中学校での位置づけ	78%	78%

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画(案)	推進担当課
35	環境教育教材の作成	小・中学校の環境教育教材の充実を推進します。	2,667	千葉県環境教育教材等作成会議設置要領に基づき、小・中学生を対象とした教材各10,000部を年度末までに作成し、次年度の新小学4年生及び新中学1年生に配布する。	環境調整課
			0	環境教育モデル校の活動や、総合的な学習の時間の主任会等を通して、環境教育教材の活用を推進し、千葉市の環境教育の質的向上を図る。また、21年度版に修正を加え教材の質的向上を目指す。	指導課
36	環境学習モデル校の指定	環境学習のモデルとなる学校を選定し、児童の環境保全活動及び環境問題への取り組みを支援し、地球環境への意識を高めます。	1,890	千葉県環境学習モデル校指定事業実施要綱に基づき、小学校、中学校それぞれ6校を環境学習モデル校に指定する。それぞれの学校では、活動計画書を作成し、活動を行ない、平成23年2月頃に発表会を開催する。また、各校の活動を活動実践集としてまとめ、全小・中学校に配布する。	環境調整課
			0	引き続き各区小中1校、計12校をモデル校として指定し、環境に関する児童生徒の理解を深め、意識の向上と環境問題の解決のための能力を育成する。	指導課

22「Ⅱ 社会性」

37	ごみ分別スクールの推進	ごみの分別や排出ルールについて、児童自らが実際に目で見て手で触れる体験型プログラムの実施を推進します。	3,560	市内123校（市立小学校120校のほかに、新規実施校として、市立第二養護学校、千葉大学附属小学校、千葉大学附属特別支援学校の3校を追加）の4年生を対象に、ごみ減量・再資源化の重要性を十分に理解してもらうために、ごみの分別やごみ出しルールを体験学習するプログラムを実施する。	ごみ減量推進課
			0	市内全小学校の4年生に対し、「ごみ分別スクール」を実施し、適切なごみ処理の方法についての学習を行うとともに、社会科や総合的な学習の時間における学習や活動にも生かす。	指導課

8,117

12 いじめ等問題行動への対応

不登校やいじめなどの悩み・不安に対して教育相談を実施することにより、その解消を図ります。

達成指標	全児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合 （上段：小学生、下段：中学生）	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*0.22% *2.73%	0.21% 2.70%	0.20% 2.65%	0.20% 2.55%

達成指標	教育センターでのグループカウンセリング活動に参加した児童生徒のうち、学校復帰に向けた改善が図られ、教育相談指導教室に入級できた児童生徒の割合	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*32%	—40% 38%	45%	50%

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画（案）	推進担当課
38	不登校やいじめに関する教育相談の実施	不登校やいじめなど教育全般にわたる悩みを持つ保護者や児童生徒・教師などの相談に応じます。 ・教育相談ダイヤル24 ・教育センターの電話相談、来所相談（個別相談・医療相談・グ	8,536	不登校やいじめなど教育全般にわたる悩みを持つ児童生徒や保護者などの相談の充実を図る。また、毎月の長欠児童生徒の状況を把握するとともに、長欠担当教育相談員が学校を訪問し、学校復帰に向けた対応について指導・助言等を行う。 相談活動の一元化については、教育センター・養護教育センターと連携を図り一元化に向けて協議を継続する。	指導課

22「Ⅱ 社会性」

	相談の拡大	ループカウンセリング活動)、家庭訪問相談 また、各相談機関との連携を図り、相談活動の一元化を目指します。	28,565	・幼児、小学生、中学生、高校生の不登校および高校生年齢の青少年を対象にした電話相談・個別相談・医療相談を実施する。小・中学生対象には家庭訪問相談員の派遣及びグループカウンセリング活動を実施する。	教育センター
39	スクールカウンセラーの配置	児童生徒の臨床心理に関して専門的な知識・経験を有するカウンセラーを学校に配置し、児童生徒等の悩みの解消にあたります。	93,754	スクールカウンセラーを市内全中学校57校に配置し、中学校区の児童生徒へのカウンセリングを中心に教職員・保護者の相談にも応じる。また、緊急時の対応とともにカウンセラーへの指導・助言を行うなどの後方支援体制を確保するため、2区に1人ずつ3名のスーパーバイザーを配置する。	指導課
40	スクールソーシャルワーカーの活用調査研究	いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など、児童生徒の問題行動への対応を図るため、福祉機関等の関係機関を活用して援助を行う専門家の活用方法等について調査研究を行います。	0	問題を抱える子どもを取り巻く環境や、関係機関等との連携から問題解決を図る、スクールソーシャルワーカーについて、他政令市の活用状況を調査し、本市における活用のあり方について検討する。	指導課
41	ネット上のいじめへの対応	情報モラル教育を推進するとともに、教職員を対象としたインターネット等の利用に関する研修の充実を図ります。また、インターネット社会における危機管理意識や子どもの携帯電話の取り扱い等について、保護者への啓発を図るとともに、関係機関等との連携を強化していきます。	0	年度内各研修会において、インターネット利用等についての内容を扱っていく。	教育センター
			0	関係各課と連携して対応するとともに、引き続き「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の中で、内容を取り上げるように働きかけていく。	学事課
			0	教育メディア主任研修会において、「ネットいじめ」等についての研修を深め、情報モラル教育の推進を図る。また、関係各課との連携を強化し、事業の推進にあたる。	指導課
			0	小・中学校・高校の生徒指導担当者と学校警察連絡協議会の小・中学校長を対象に県警サイバー犯罪対策室から講師を招聘して講演活動を実施する。	青少年サポートセンター

130,855

(4) 夢や希望をはぐくむ教育の推進

13 将来の生き方を学ぶキャリア教育の推進

一人一人の子どもたちの個性の伸長を図りながら、社会的資質や態度を形成し、主体的に将来の生き方を考えることができる力をはぐくみます。

達成指標	職場体験学習を3日以上実施する中学校の割合	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		75%	81%	83%	95%

達成指標	高等学校卒業時の進路決定状況	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*76%	77%*調整中	78%	83%


(千円)


No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画(案)	推進担当課
42	小・中学校におけるキャリア教育の推進	児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために、必要な意欲・態度や能力を育てる教育活動を推進します。また、自己の進路を主体的に考え、適切な進路選択ができるよう、職場体験など、将来の生き方を考えるキャリア教育を実施し、望ましい勤労観・職業観の育成を推進します。	2,872	教育活動全体を通じ、児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を推進するとともに、キャリア教育の視点から学校全体の教育活動を見直し、改善する。また、中学校の職場体験については、3日間以上の推進を図る。 進路学習ノート「わたしの夢(中1、2)」、進路学習資料「進路選択の手引き(中3)」、保護者啓発資料「子供と共に考える進路」を作成・配付する。	指導課
43	高等学校におけるキャリア教育の推進	職場訪問や大学・研究機関の訪問、社会人による講演会などを実施し、将来何を学び、どのような仕事を目指していくかを考える機会を充実します。	108	サイエンスキャンプ講座(7月)、放射線医療総合研究所の訪問(5月、11月)、卒業生の話を聞く会(6月)(千葉高校) 大学訪問(5月・3年生対象)、職場訪問(9月・1年生対象)、進路懇談会(3月・2年生対象)、卒業生の話を聞く会(6月・3月)(稲毛高校)	千葉高等学校 稲毛高等学校

2,980

14 郷土の歴史と文化等を学ぶ機会の充実

郷土の歴史や文化についての理解を通し、千葉市民としての誇りや自信、郷土への愛着心をはぐくみます。

 達成指標	埋蔵文化財センターの出前講座を利用する学校数 (延べ数)	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*17校	20校 37校	23校 40校	30校

 達成指標	ふれあいパスポートで施設を利用する児童生徒の割合	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*32%	35%	38%	50%

(千円)					
No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画(案)	推進担当課
44	地域教材の作成と活用	児童生徒が、身近な地域である郷土千葉市の地域学習に主体的に取り組むことができるよう、社会科の補助教材を作成します。 ・小学校補助教材「わたしたちの千葉市」の作成 ・中学校補助教材「伸びゆく千葉市」の作成	小 5,869 中 2,462	新学習指導要領の目標及び内容に沿った小学校補助教材「わたしたちの千葉市」、中学校補助教材「伸びゆく千葉市」を作成して、小学校全3年生及び中学校全1年生に配布する。	指導課
45	埋蔵文化財を活用した出前授業	市内から出土した遺物等から原始・古代の地域の生活や歴史を学んだり、アクセサリーづくりや火起し体験などを通じて古代の知恵を学んだりする機会を提供します。	1,102	・勾玉づくり、火起こし、講演会などを実施する。	生涯学習振興課
46	博物館・美術館・埋蔵文化財調査センター等との連携 (再掲⇒23)				
47	「千葉市の農業」の配布と活用	全小学校3年生を対象に「千葉市の農業」を配布するとともに、社会科等で活用し、本市の農業の現状や農家の人たちの工夫などについて理解を図ります。	851	11月上旬に契約課に印刷発注依頼→11月中旬印刷業者決定契約→11月下旬～1月下旬に業者と打ち合わせ及び校正(3校予定)→2月に製本→3月上旬市内全小学校に配布	農業振興課
			0	農業振興課が作成する「千葉市の農業」を各小学校に配布して、社会科等の学習で活用する。	指導課

22「Ⅱ 社会性」

48	ふれあいパスポートの発行配布	市内に在住・在学する全小・中学生に「ふれあいパスポート」を配布し、市内の社会教育施設やスポーツ施設等を無料又は割引価格で利用できるようにし、子どもたちの学校外活動と夢づくりを支援します。 施設の利用日については、現在土曜日を基本としていますが、今後拡充に努めます。	777	市内に在住・在学する全小・中学生に「ふれあいパスポート」を配布し、市内の社会教育施設やスポーツ施設等を無料又は割引価格で利用できるようにし、子どもたちの学校外活動と夢づくりを支援します。 施設の利用日については、現在土曜日を基本としていますが、今後拡充に努めます。なお、22年度から「千葉市民ゴルフ場」も対象施設として、学校の夏季休業期間中に割引価格で利用できるようにします。	企画課
----	----------------	---	-----	---	-----

11,061

15 国際人を育てる国際理解教育の推進

外国語指導助手による英語活動・語学指導を充実させ、国際化の進展に応じた国際理解教育を推進するとともに、コミュニケーションを図る能力や態度の育成に努めます。

達成指標	「英語の勉強が好き」と肯定的に回答する生徒の割合 (中2年)	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*61%	61%	62%	70%
達成指標	「英語活動が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合 (小5年)	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*81%	81% 90%	82% 90%	85% 90%
達成指標	中高一貫教育校（稲毛高等学校・附属中学校）における高校2年時の実用英語技能検定（英検）2級の合格率	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		—	—	—	100% (平成23年度)

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画（案）	推進担当課
49	小学校英語活動の推進	外国の文化や生活習慣に親しむ体験的な英語活動を通して、児童に豊かな国際感覚を身に付けさせるとともに、異文化理解の推進、コミュニケーション能力の育成を目指します。	82,737	年間35時間の英語活動を実施し、そのうちの30時間は市内小学校5・6年全学級に外国人講師を配置し、学級担任との協同授業を行う。各学校の校内研修を充実させ、より楽しい英語活動が推進できるようにする。また、学区中学校英語科教員による小学校英語活動参観を継続し、小中学校の連携を図る。	指導課

22「Ⅱ 社会性」

50	外国語指導助手（ALT）の派遣	全中学校・高等学校に外国語指導助手（ALT）を派遣し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指します。	88,253	19名の外国語指導助手等を、全中学校・高等学校に配置し、英語科職員との協同授業により、コミュニケーション能力の向上を図る。	指導課
51	中高一貫教育校における英語教育の展開	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業の研究課題について継続研究を進めるとともに、中高の一貫したシラバスの研究・作成等、中高一貫教育校における英語教育の効果的な展開を図ります。	14,501	中高一貫教育目標である「真の国際人の育成」のため、ネイティブスピーカー（外国人講師）による授業を行う。	稲毛高等学校附属中学校


185,491

(5) 豊かな情操をはぐくむ教育の推進

16 読書活動の充実と読書習慣の定着

学校図書館指導員による個に応じた適切な図書のアドバイス等を通して、読書を楽しむ習慣の形成を図るとともに、調べ学習のための図書館環境を充実させ、生きる力と豊かな心の育成を図ります。

 達成指標	児童生徒の月平均読書冊数 一人当たり2週間の （上段：小学生、下段：中学生）	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		21.1冊 10冊 —8.3冊 4冊	20.5冊 13冊 —8.5冊 6冊	20.5冊 13冊 —8.5冊 7冊	21.0冊 15冊 —9.0冊 8冊

 達成指標	1週間にどのくらい読書をするかに対し「読まない」と回答する児童生徒の割合 （上段：小5年、下段：中2年）	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		*17.5% *16.3%	16.0% 15.0%	15.0% 14.0%	10.0% 10.0%

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画（案）	推進担当課
52	学校図書館指導員による読書活動の充実推進	全小・中学校に配置された学校図書館指導員が、児童生徒の豊かな読書活動を推進します。児童生徒への適切な図書の紹介や図書館の環境整備、読み聞かせなどの取り組みを行います。	226,712	・全中学校及び大規模な小学校等8校に専任として週4日、その他の小学校には、週2日ずつ学校図書館指導員を配置する。児童生徒の豊かな読書活動を推進し、適切な図書の紹介や図書館の環境整備、読み聞かせなどの取り組みを行う。	指導課

53	学校図書館図書の充実	基本図書（図鑑・辞典類）、研究参考図書（調べ学習に対応できる図書）の購入を中心に、蔵書の充実を図ります。	小 50,219 中 29,665 特 1,347	・基本図書（図鑑・辞典類）、研究参考図書（調べ学習に対応できる図書）の購入を中心に、蔵書の充実を図る。	指導課
54	朝読書の推進	読書の習慣化、豊かな心の育成、基礎学力の向上を図るために、朝読書の習慣化を推進します。	0	・読書の習慣化、豊かな心の育成、基礎学力の向上を図るために、朝読書の習慣化を推進する。	指導課

307,943

17 図書館との連携推進

図書館と連携し、調べ学習や読書活動の充実を図ります。

生きる力と豊かな心の育成を図ります。

 達成指標	団体貸出用資料の貸出冊数 （学校専用貸出及び団体用貸出の計）	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		16,000冊	17,000冊 19,606冊	18,000冊 20,000冊	20,000冊 23,000冊

 達成指標	子ども読書まつりの参加人数	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		3,800人	4,000人 4,445人	4,200人 4,500人	5,000人

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画（案）	推進担当課
55	図書館図書の団体貸出の推進	学校での調べ学習や朝読書等に必要資料を収集し、提供するとともに、図書館のホームページで団体貸出用資料一覧の閲覧やレファレンスサービスの充実に努めます。	1,344	・市内小中学校全校の団体貸出登録をめざすとともに、調べ学習資料や朝読書資料を充実させ、学校図書館の支援を行う。 ・平成21年度に整備した中学校向け図書のセット貸出を含めた利用の増加を図る。	中央図書館


56	図書館見学・職場体験やおはなし会の実施	子どもたちが図書館の役割や仕事の内容を学ぶことができるように、図書館内の見学・職場体験・おはなし会を実施します。	0	・図書館への理解を深めるとともに、読書への関心を高めるため、小学校には、図書館施設見学やおはなし会を実施する。 ・中学校は、図書館の仕事を学ぶ職場体験を実施する。	中央図書館
57	子ども読書まつりの実施	学校や地域との協同により、子どもたちが読書に興味・関心を持つことができるように、昔ばなしの部屋や外国語のおはなし会等各種イベントを実施します。	23	・わらべうた・おはなし会を含むイベント内容を工夫し、学校・地域と連携して実施する。 中央図書館10月25日（土） 全館で実施する予定。	中央図書館

1,367

18 芸術文化等に親しむ活動の充実

優れた音楽や舞台芸術の鑑賞などを通して、子どもたちの豊かな感性と創造性をはぐくみます。

生きる力と豊かな心の育成を図ります。

 達成指標	オーケストラコンサート参加人数	現状	平成21年度	平成22年度	目標値
		4,231人	4,900人 3,600人	4,900人 4,000人	4,900人

(千円)

No.	アクションプラン名	事業内容	22年度当初予算	22年度の行動計画（案）	推進担当課
58	小・中学校音楽鑑賞教室、オーケストラコンサートの開催	小・中学生を対象に「小・中学校音楽鑑賞教室」、「小・中学生のためのオーケストラコンサート」を実施し、多くの児童生徒が芸術文化を鑑賞することにより、児童生徒の情操の涵養を図るとともに、音楽文化の振興と児童生徒の健全育成を推進します。	9,008	小・中学生を対象に「小・中学校音楽鑑賞教室」と、「小・中学生のためのオーケストラコンサート」を実施し、多くの児童生徒が芸術文化を鑑賞できる機会を設けることにより、情操の涵養を図るとともに、音楽文化の振興と児童生徒の健全育成を推進する。	指導課

22「Ⅱ 社会性」

59	本物の舞台芸術の体験	優れた舞台芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの豊かな感性と創造性をはぐくみます。	0	・「子どものための優れた舞台芸術体験事業」と名称を変更して、平成22年度も実施予定	生涯学習振興課
60	伝統文化を学び、伝統文化にふれる機会の充実	子どもたちの伝統文化に対する関心を高めるため、学校や地域で活動している団体等の協力を得て、民族芸能、茶道、華道、舞踊、邦楽など伝統文化に関する体験、学習を行うことができる仕組みづくりに取り組めます。	3,150	・能公演等	文化振興課
61	青少年ミュージカルの実施	青少年の情操の涵養と健全育成を図るため、小・中学校等と連携をして、青少年の参加による創作ミュージカルの公演を隔年実施します。	隔年事業のため実施せず	隔年事業のため実施せず	文化振興課
62	ふれあい音楽クリニック・コンサートの実施	小・中学校等において、子どもたちを対象にプロの音楽家による演奏指導を行った後、プロとのジョイントコンサートにて成果を発表する機会を提供します。	1,405	小中学校2校で各2回、プロのジャズ奏者が演奏指導を行い、2校の合同発表会を行う。 ・クリニック 市立小中学校2校 平成22年7～8月頃 ・コンサート 平成22年10月3日	文化振興課
63	美術館での鑑賞教育の推進	バスでの送迎と鑑賞プログラムの設置により、学校団体の利用を促し、子どもたちに美術鑑賞の機会を用意します。	1,155	・市立小中学校20校を対象に実施	文化振興課

14,718

(千円)

1,589,695

実施事業

20

調査・調整

4